

美しい月の光の中で

山 本 真 司

奨励者紹介〔やまもと・しんじ〕

同志社国際中学校・高等学校 宗教センター主任

都に上る歌。

目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。

わたしの助けはどこから来るのか。

わたしの助けは来る

天地を造られた主のもとから。

どうか、主があなたを助けて

足がよろめかないようにし

まどろむことなく見守ってくださるように。

見よ、イスラエルを見守る方は

まどろむことなく、眠ることもない。

主はあなたを見守る方

あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。

昼、太陽はあなたを撃つことがなく

夜、月もあなたを撃つことがない。

主がすべての災いを遠ざけて

あなたを見守り

あなたの魂を見守ってくださるように。

あなたの出で立つのも帰るのも

主が見守ってくださるように。

今も、そしてとこしえに。

（詩篇 121 篇 1—8 節）

NHKの連続テレビ小説「エール」で薬師丸ひろ子さんが賛美歌「うるわしの白百合」を三分間にわたって絶唱したことが話題になっています。キリスト教の考証を担当している聖公会の司祭は、薬師丸さん演ずる光子が名古屋の金城女学校を卒業して、焼け跡から拾ったのは女学校時代に大切にしていた賛美歌にしたら良いと提案されました。台本には光子が「戦争のこんちくしょう!こんちくしょう!」とうなりながら地面をたたくことになっていたということですが、薬師丸さんがこの場面で賛美歌を歌いたいと言われたそうです。キリスト信徒ではないのに、なぜ、賛美歌を思いついたのでしょうか。実は、彼女が学生時

代に玉川大学の礼拝でよく歌われていたからだということです。玉川大学はわたしたち同志社が関係する日本キリスト教団の信徒、小原國芳（おばら くによし）さんが創立者です。キリスト教学校で触れた聖書や賛美歌はいわば「蒔かれた種」であり、それがさまざまな形で芽吹くことがある一例ではないか、というのです。

キリスト教との接点が直接なかった多くの視聴者、SNSを通じて100万人を超える人々がこの記事に触れておられる。思いがけず、どこかで聞いたことのある、歌ったことのある「うるわしの白百合」を口ずさんだということです。この賛美歌を通して、大切な思い出、子どもの頃の記憶や物語が鮮やかによみがえった事実、神の不思議な御手を感じます。ドラマでは辛い、悲惨な戦争が終わり、平安な日々が訪れたシーンです。「『うるわしの白百合』を歌い終わった薬師丸ひろ子さんが、ゆっくりと、しかし、優しく十字架をその手に包む美しい場面があったが（事前に、わたしと薬師丸さんとで相談させていただいた姿である）。それは、世を去ったすべての人の魂と、いま生きるすべてのいのちを優しく包む『祈り』に他ならない。」この瞬間に聖書が語る死から復活へというメッセージそのものが人々の心に届いたということではないかと、西原司祭は言われます。

さて、わたしたちは未曾有の禍のただなかを歩んでいます。高度によどみなく発達を遂げてきている現代文明に、コロナ禍が立ちはだかっているかのように思えます。多かれ少なかれわたしたちは人生にネガティブな、負の影響を受けているのではないのでしょうか。このような状況にあって、わたしたちはどこに、どのような道標を見出すことができるのでしょうか。

先ほどお読みいただいた詩篇は、都エルサレムへ旅立つ人の心境を伝えています。当時の旅は想像できないほど危険で不安なものだったに違いありません。ちょうど、コロナ禍を前にして怯え、立ち止まり、未来に不安を抱くわたしたちのようなものではないのでしょうか。しかし、なお、この人はエルサレム神殿へ歩みだそうと魂を奮い立たせているのです。

ところで、わたしが幼少期に過ごした北海道（アイヌモシリ＝人間の静かなる大地）の先住民は太陽と月を同じ単語、チュプ（cup）で表すということです。太陽は昼の太陽、月は夜の太陽と言い分けています。自然と共に生きる人々は人と同じ姿をしているカムイと呼ばれる神と共に生きています。あくまでも想像ですが、古代信仰の共通性をここに見ることができるのではないかと思います。アイヌの人々のカムイもまた「あなたを見守る方／あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。昼、太陽はあなたを撃つことがなく／夜、月もあなたを撃つことがない。主がすべての災いを遠ざけて／あなたを見守り／あなたの魂を見守ってください。あなたの出で立つのも帰るのも／主が見守ってください」（詩編121編5—8節）存在なのではないかと思うのです。

同志社創業の日々を思うとき、新島と同志たちがわたしたちの想像をはるかに超えた困難に立ち向かう姿を思うのです。日々の苦闘の中で僅かな安らぎを静かな平原で美しい月の光に包まれて祈る姿を。これは、わたしたちの日々にも通じていることでしょう。ちょうど、はるか彼方にそびえる旅の途中で必ず越えなければならない山を見上げている詩篇の作者は、わたしたちそのものなのではないのでしょうか。ふもとに野営しているのか、中腹でビバーク（biwak）せざるを得ない状況なのかも知れません。あるいは、ピークが見えて安心しているのかも知れません。今日ひと日の安らぎを月が優しく包んでくれる、そのような

情景をわたしはこの詩篇に見出すのです。

1879年9月4日付けのハーディー氏への手紙に、新島襄は赤裸々な現実の苦闘と「同志社と呼ばれる結社」のあり方や方向性を綴っています。この手紙をしたためる少し前、6月7日に同志社社長新島襄は京都府知事榎村正直宛てに「校内における聖書講義に関する弁明書」を提出しましたが、不適切と指摘され、「デイヴィス氏はホプキンスの『修身学』を教え終わったところで、学生の中からホプキンス氏の論説の基礎ともなっているキリスト教の教訓について質問があり、教科書だけでは不十分なのでやむを得ず聖書の中からキリストの言葉を引用し解答していた、と申し述べておりました。今後はくれぐれも注意するよう私から申し渡しておきました。」

(<http://joseph.doshisha.ac.jp/ihinko/html/n04/n04010/N0401001G.html> 2020年11月24日アクセス)と弁明しているのです。小中学校で「道徳」が教科化された今、年を隔てて、聖書を教えるために、また弁明をしなければならないのでしょうか。創立を記念する礼拝にあって、同志社は何を優先すべきかを感じ、学ぼうではありませんか。

「私たちは、『蛇のように賢くあれ』というわが主のみ言葉を覚えて実行すべきです。選り抜きの人、新約聖書の精神を持った人、幅広い教育と強固な人格を持ち、適応力を持った人を送り出してください。私たちの学校をもっとも魅力的なものにするためには、ほかの学校に遅れをとらないこと、それどころかさらに先を行くことが、絶対に必要です。」

〔参考文献〕

西原廉太 「PRESIDENT Online 薬師丸ひろ子の『3分間独唱』が朝ドラの歴史を塗り替えてしまった理由 1秒もカットしない制作陣の英断」 <https://president.jp/articles/-/39732?page=1> (2020年11月24日アクセス)

同志社 『現代語で読む新島襄』 編集委員会編 『現代語で読む新島襄』 丸善 2000年

2020年11月25日 京田辺水曜ランチタイム・チャペル・アワー「創立記念礼拝奨励」記録